

第4章レポート（デコーダー I C） セルフチェックシート

番号（ ） 学生氏名（ ）

再提出の学生は、レポート表紙の次のページにセルフチェックシートを挿入すること。

評価レベル

D：不備が多く最後まで読めなかったレポート、実験結果に誤りがある。

☐ 書式不備（実験指導書に書かれている内容の不備【フリーハンド、鉛筆書き、章立て、ページ番号抜け、図表タイトルの位置等】）

☐ 未完成（未提出、提出遅れ扱いとする）

C：最後まで読んだが修正箇所が多く、報告書レベルに達していない。（改善次第で再評価あり）

☐ 文章の不備（読み手に苦勞される文章表現等）

☐ セグメントがどのように点灯したのかが明記されていない。

☐ 動作原理の説明がない

B：受理レベルのレポート

A：標準的なレポート

S：非常に優れたレポート

理論・原理

☐ 原理だけの章題

☐ カウンタについての説明がない。（トグルスイッチの動作でカウントされる原理）

☐ 説明が実験指導書の丸写し（説明したことにならない）

記述方法

☐ 入力値の H、L とスイッチの ON、OFF の関係が不明確（説明、実験結果の表等）

☐ 配線図が図のような配線したかの個人的見解（指導書通りに組んだだけではだめ）が書かれていない。

☐ 実験装置が明記されていない。

☐ 漠然とタイトルを「実験回路」としている。何の実験回路かを記述すること。

実験結果

☐ 実験結果が主観的表現（客観的に結果を示す）（ちゃんと動作した、回路が正しい）

☐ 0 から 9 が点灯しただけの記述

☐ 実験回路においてどう動作して結果が得られたかを原理を用いながら説明できていない。

☐ LED の点灯した位置だけでなく、点灯パターンをしめすことが大事

☐結果を得たことで何が理解できたかの記述がない.

☐実験結果の教員確認で実験成功とまとめている.

考察

☐実験の目的に対して、達成できたのかの説明がない.

☐失敗した事例だけを書いている. 失敗を今後起こさないための考えを記述していない.

☐一般論的な記述（実験が成功した. L E Dがちゃんと点灯した等）. 自身で得た知見や考察の記述が必要.

☐この実験で具体的に理解できたことは何かを言及すること

その他

☐図や表とそれを説明する文章のページが異なっているのにページ番号が明記されていない.

☐グラフ用紙の中に、図、表番号やタイトルが書かれている.

全体的な指摘

☐読んでもらうという意識が低いレポート記述（読み手に苦勞させる）である.

☐無駄な記述が多い（読み直せばわかる）

☐字下げするのであれば1文字で十分

☐図、表の上下に1行のスペースを入れること

☐章題やタイトルは、意味がわかる文言で書くこと.

☐説明の文章のそばに、図や表を入れ込むこと（図、表をまとめて張り付けているのはダメ）